南富良野町

6331 中嶋 瞳

1.概要と歴史

面積の 90 パーセントが緑豊かな森林で形成されており、空知川を利用したラフティング、「かなやま湖」でのキャンプやカヌー、フィッシングが楽しめる観光の拠点として整備が図られている。また、高倉健主演の映画「鉄道員（ぽっぽや）」のロケ地としても注目を集め、幾寅（幌舞）駅を中心としたロケセット周辺は観光客が訪れている。明治 41 年月下富良野村から分村するに際し、富良野地域の南に位置することから「南」の字を冠して「南富良野村」と命名された。

- 1891 年 砂金採取者が金山に入り、開基となる
- 1899 年 空知郡富良野村が空知支庁から上川支庁に移管
- 1901 年 伊勢団体、岐阜団体が移住
- 1908 年 下富良野村（現富良野市）戸長役場から分離、南富良野村外 1 ヶ村戸長役場を設置。
- 1919 年 二級町村制施行、空知郡南富良野村となる。南富良野村、占冠村組合役場を設置
- 1932 年 南富良野村、占冠村組合役場を解き、独立
- 1966 年 金山ダム（かなやま湖）完成
- 1967 年 町制施行、南富良野町
- 1999 年 町内で映画『鉄道員（ぽっぽや）』のロケがおこなわれた

表 1 南富良野町略年表

1.1 地理

南富良野町は北海道のほぼ中央に位置し、東西に貫流する空知川に沿った 6 集落からなる。東は十勝管内新得町，西は空知管内夕張市，南は占冠村，北は富良野市に隣接している。四方が山に囲まれその大部分は自然そのままの豊かな森林からなっている。具体的な緯度・経度、面積を下に示す。

●位置：北緯 43 度 10 分
　　東経 142 度 35 分
●面積：665.53 平方キロメートル

図 1 北海道内での位置 出典：北海道市町村ガイド　　図 2 町の形　出典：上川支庁 HP

1.2 人口・世帯数の推移

南富良野町の人口はその総数で見ると年々減り続けている。特に 1970(昭和 45)年から 1985(昭和 60)年にかけて急激に人口が減っている。それぞれの年齢の区分について見ると 0～14 歳の区分と 15～64 歳の区分の両方で人口は減少し続けている。しかし逆に 65 歳以上の町民の人口は増え続けている〔図 3 南富良野町の人口推移〕。総人口が減り、65 歳以上の人口が増えていることで、南富良野町の人口の高齢者比率も増加傾向にある〔図 4 南富良野町の人口の高齢者比率〕

一方世帯数は減少してはいるものの、その減少幅は緩やかである〔図 5 南富良野町の総世帯数推移〕。

日本では、1960 年代以降の高度経済成長にともなって人口の激しい都市集中が続き、過疎地帯となる地域が多く発生したが、南富良野町も同様に、0～14 歳の区分と 15～64 歳の区分で人口が減少していることから、労働力人口が都市に吸収され、年齢構成は老齢化し、地域の生産機能が低下し過疎地域となったことがわかる。

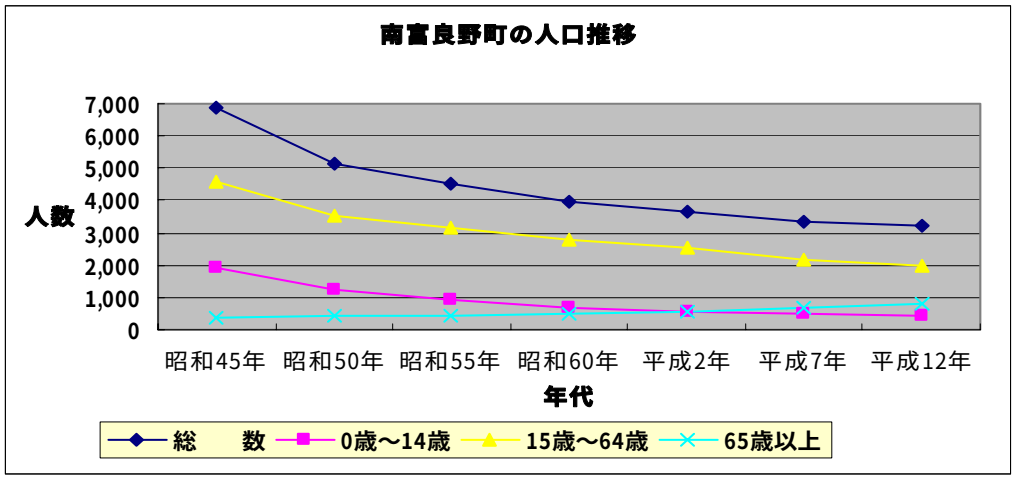


図３ 南富良野町の人口推移

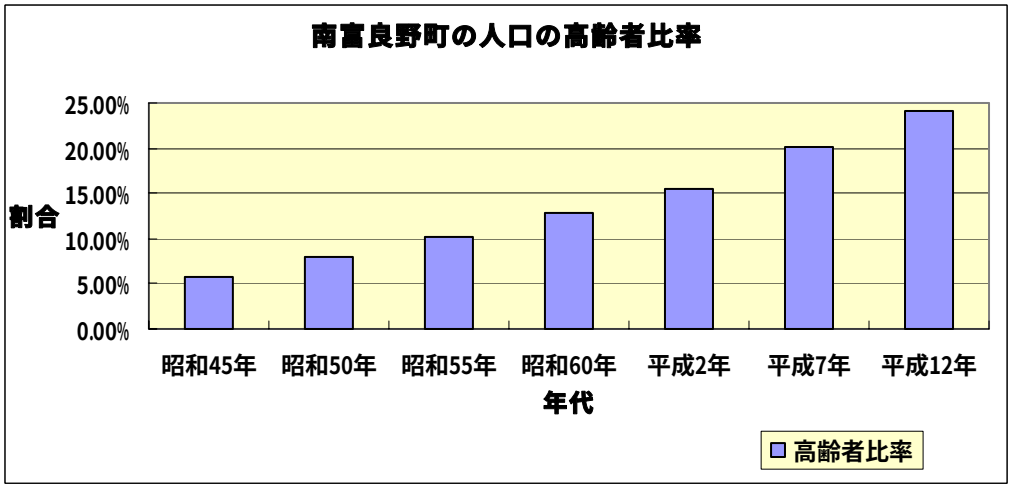


図４　南富良野町の人口の高齢者比率

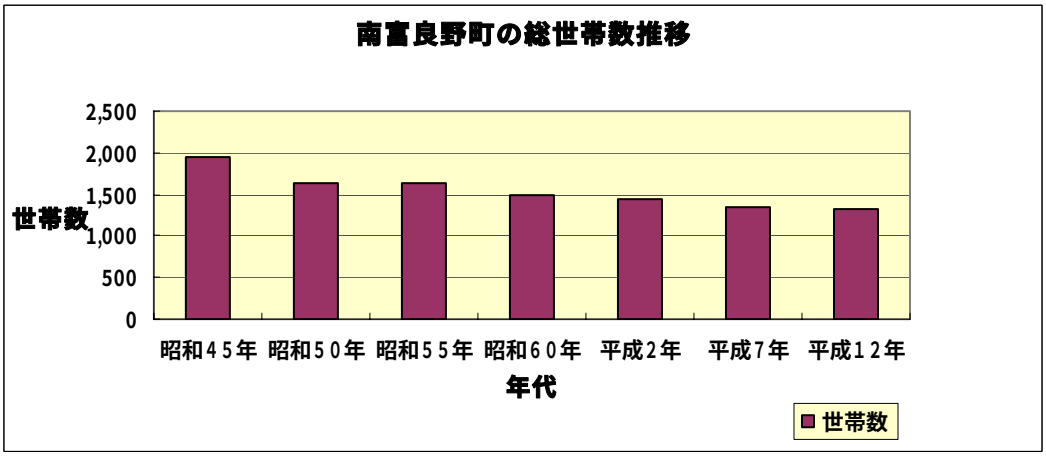


図５　南富良野町の総世帯数推移

1.産業

2.1 産業と産業別人口

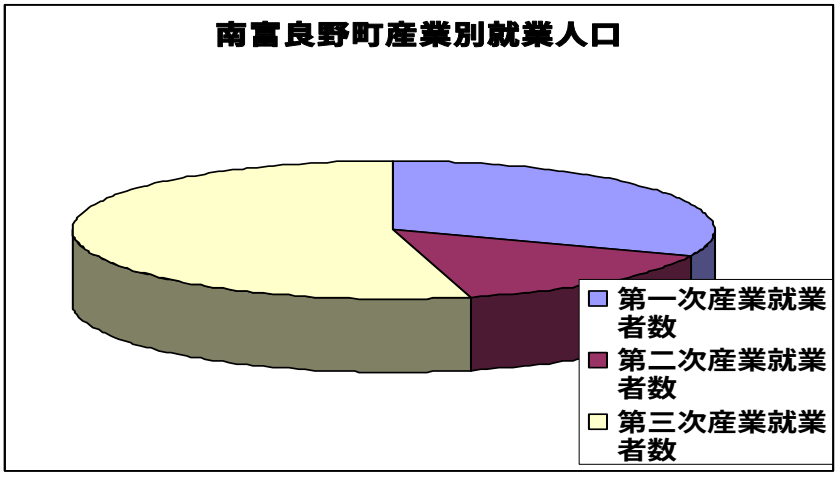


図 6 南富良野町の産業別就業人口

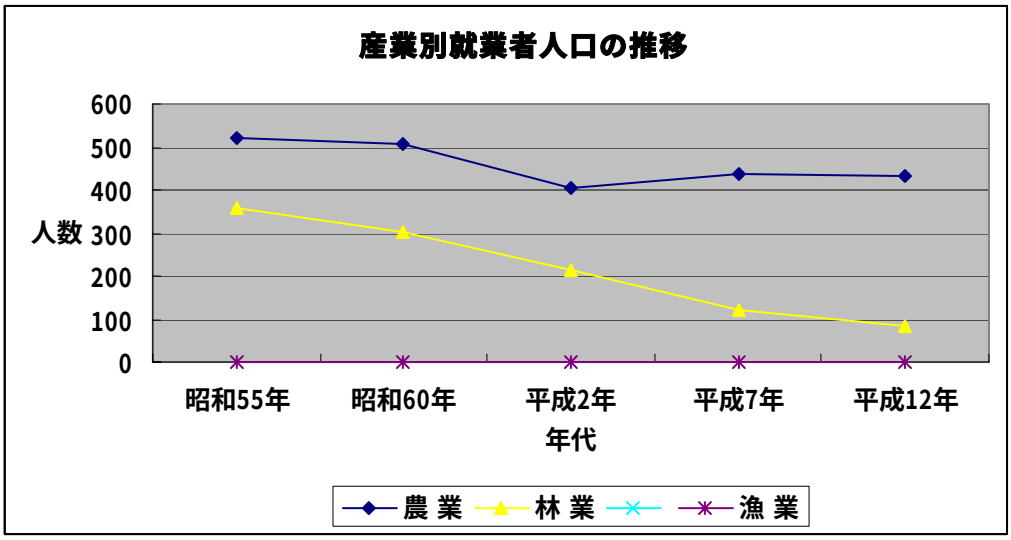


図 7 南富良野町の産業別就業者人口の推移

産業別就業人口を見ると、第一次産業に就いている人が多い〔図 6 南富良野町の産業別就業人口〕。第一次産業のなかでの鉱業、建設業、製造業では南富良野町では建設業に就いている人が最も多い。

次に産業別の就業者人口の推移を見てみると、まず漁業はほとんど行われていないことがわかる。これはおそらく南富良野町が海に面していない内陸部に位置していることが理由であると思われる。次に農業と林業についてだが、農業就業者の増減幅はほぼ横ばいであるが,林業就業者は減少していたようである〔図 7　南富良野町の産業別就業者人口の推移〕。

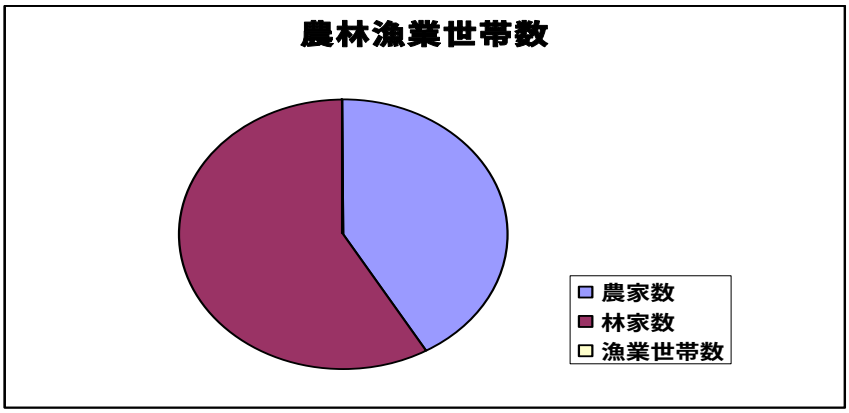


図 8 農林漁業世帯数の割合（平成 12 年）

しかし、単に林業の就業者数だけを見ると、南富良野町ではあまり林業がさかんではないように見えるが、農家と林家の世帯数を比べてみると実際は農家の数より林家の数の方が多い〔図 8　農林漁業世帯数の割合（平成 12 年)〕。したがって、南富良野町では就業者数は少ないものの、林業がさかんなようである。

2.2 農業

主な産物は，ジャガイモ，ニンジン，水稲（餅米），ソバ，トウモロコシ，牛乳，肉牛，石灰石，木材，淡水魚であるが，近年はメロン，ユリ根，アスパラガス等の生産も行われるようになってきている。1967(昭和 42)年完成の金山ダム建設によって，町の農業生産の３割を占めていた農地が水没し，若年層の流出，離農等でこのときにも急激な過疎化が進行したが，現在は落ち着いている。

一戸当たりの経営面積は約 20ha と地区内で最も大きく、畑作・野菜の複合経営が主体になっている。〔図 9 農業算出額の内訳〕農業産出額ではにんじんを中心とする野菜が全体の約 69%を占め、次いで馬鈴しょ等の畑作物、以下畜産、水稲の順になっている。近年、根菜類の作付けが多く、過作傾向であるため土壌病害の多発が懸念されている。水稲は冷涼な気候のため、もち米生産（団地化）に転換し、良質、良食味米の安定供給を目指している。また、水稲地帯を中心に施設野菜が増加してきている。また、一戸当たりの生産農業所得は高く、経営は安定している。

主な農業産出額を占める野菜であるが、その収穫量の内訳を詳しく見てみると、前に述べたように南富良野町で主に収穫されるのはにんじんであることがわかる。次いで馬鈴しょが多く、だいこん、たまねぎも収穫される。この四つの作物が主であるが、そのほかにもトマト、キャベツ、ねぎといったさまざまな作物が生産されている。ほうれんそう、はくさい、きゅうり、なすといった作物も少量ではあるが収穫されている〔図 10　野菜の収穫量の内訳〕。農業産出額の具体的な金額を見ると、野菜類の産出額が水稲や麦類の産出額の 20 倍となっている。このことからも野菜の生産の盛んさがわかる。畜産では、乳用牛の生産額が肉用牛の生産額の 17 倍であることから、酪農の方が盛んであることがわかる。

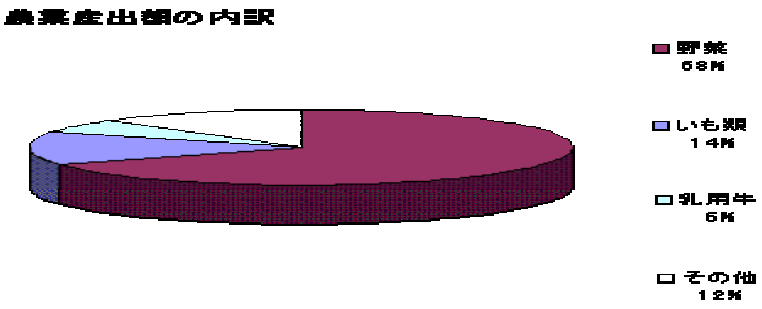


図 9 農業産出額の内訳 出典：わがマチ・わがムラ～市町村の姿

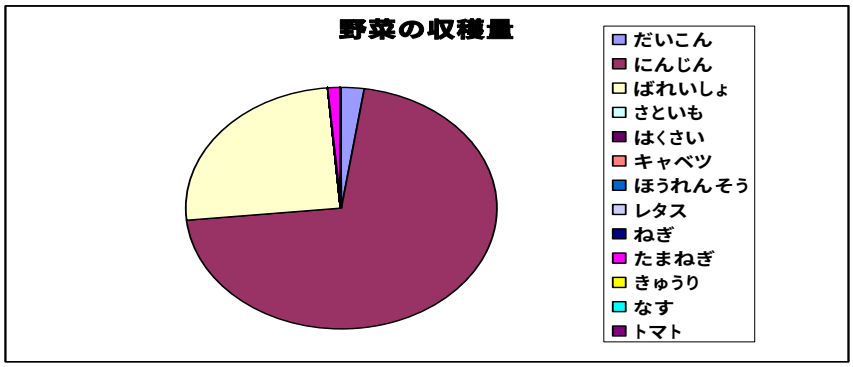
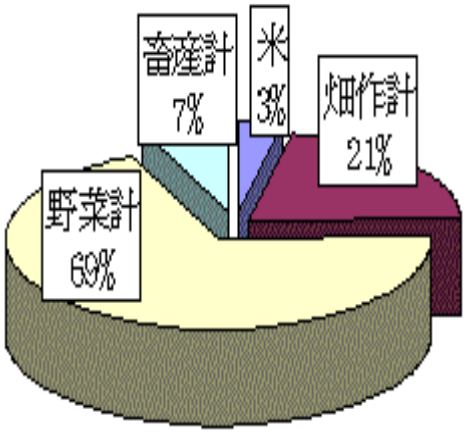


図 10　野菜の収穫量の内訳

農業産出額（平成 14 年）　単位：100 万円



（耕　種）		（畜　産）	
水　稲	100	肉用牛	10
麦　類	100	乳用牛	170
豆　類	60	豚	
馬鈴しょ	440	鶏	
野菜類	2,020	その他	0
果　実	10		
花　き	0		
工芸作物	20		
その他	0		
耕種小計	2,750	畜産小計	200
合　計	2,950		

(北海道農林水産統計情報 H14 年～15 年)

表 2 南富良野町農業産出額 出展：南富良野町農業概要

2.3 林業

南富良野町は四方を山に囲まれ、その大部分が豊かな森林である。これは、林野率が84.6%であることからわかる。さらに、そのうち人工林率が 26.9%であることから、農業に加え林業もさかんであることがわかる〔図 11 南富良野町の林野率と人工林率〕。さらにここから、その林野の 7 割以上が天然林であることもわかる。これでいかに南富良野町が豊かな森林を有しているかがわかるだろう。

樹林地の内訳についてはその具体的な樹林名の割合をあげると、えぞまつ、とどまつが21%と最も多く、次にからまつが 5%、くぬぎ・ならが 1%という割合になっている。

その南富良野町の林業の特徴としては、約 2 割の林家が 10～50ｈａ以上の山林を保有しており、半数の林家が 5ｈａ以上の山林を保有している〔図 12 保有林規模別にみた林家数と保有山林面積〕ことから、かなり大規模な林業が行われていることがわかる。

しかし、林野の面積は 90 年代をピークに減少し続けており〔図 13 林野面積の推移〕、今後はこの豊かな林野の保存と南富良野町の特性を生かした林業のさらなる振興の共生の道を考えなければならないだろう。

現在南富良野町は町の美しい景観の重要な要素となっている森林をかけがえのない財産とし考え、「緑豊かな森林を守り育てる町」を宣言して、長期的な視野に立った林業の振興を図っている。

図 11　南富良野町の林野率と人工林率　出典：わがマチ・わがムラ～市町村の姿

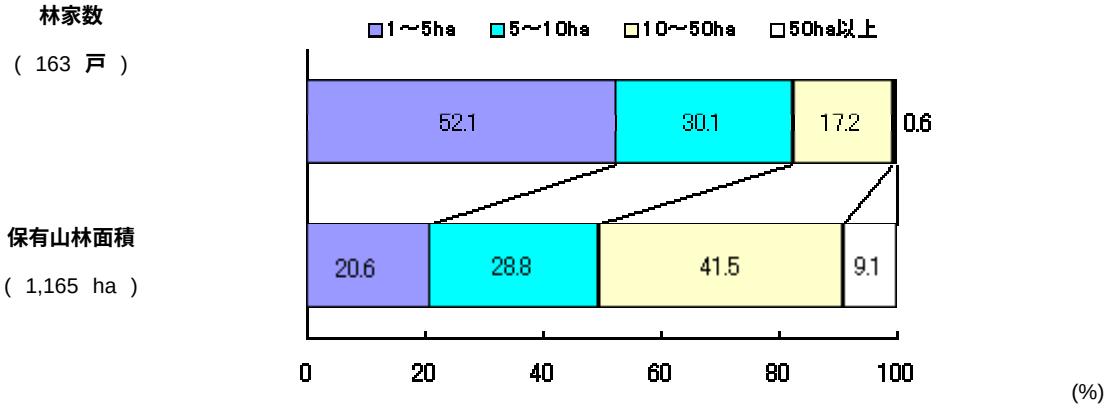


図 12 保有山林規模別にみた林家数と保有山林面積　出典:わがマチ・わがムラ～市町村の姿

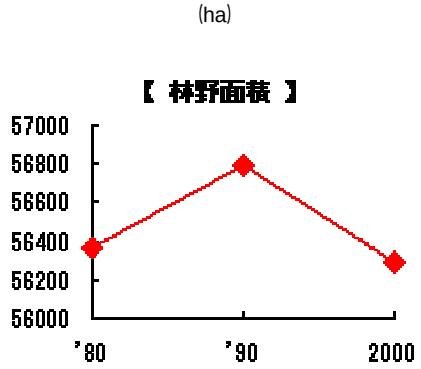


図 13　林野面積の推移 出典：わがマチ・わがムラ～市町村の姿

3.観光

山、川、森、湖といった北海道の中でも一級の自然が息づく南富良野町。カヌーをはじめ、キャンプ、釣り、MTB などの絶好のフィールドが広がっている。たとえば、波静かな湖面でのカヌーも、空知川源流部のホワイトウォータースポットに挑戦することも、自然が豊かだからこそ可能にしてくれる。何もせず、のんびり一日を過ごすのも、スポーティーに、そしてアクティブに自然を満喫するのも自由自在である。南富良野町の“山村休暇”は、まさに静と動の魅力にあふれている。

3.1 かなやま湖

1967(昭和 42)年に完成した金山ダムによって誕生した人造湖で、ニジマスやアメマス、ウグイなど多くの種類の淡水魚が生息しており、これを利用した内水面漁業が新たな地場産業として期待されている。幻の魚・イトウを始め、ニジマスやワカサギのふ化、養殖が行われている。また、水面を利用し、カヌー、ウインドサーフィン、ヨット、釣りなど多彩なアウトドアライフが楽しめる。

その湖畔にはキャンプ場があり、500 張以上のテント設営が可能なテントサイトをもつ「かなやま湖畔キャンプ場」は規模、設備の充実度ともに道内屈指のキャンプ場として知られている。およそ 800 台収容の駐車場、ログハウスの管理棟、清潔なトイレなど、環境設備も行き届いているのでビギナーやファミリーでも安心してキャンピングを楽しむことができる。その上、ウォーターフロントの「かなやま湖畔キャンプ場」は、先にも述べたがカヌーをはじめ、ウィンドサーフィン、ヨットやフィッシングも思いのままにできる。まさにここは、アウトドア・ライフの醍醐味を堪能できるすべての条件を揃えたキャンプ場であると言ってよい。そのすばらしさは、本格的なキャンプシーズンを前にした 4 月下旬から、気の早いキャンパーたちが集まってくるほどである。

図 14 かなやま湖全景　出典：かなやま湖（南富良野町）

図 15 かなやま湖畔キャンプ場　出典：南富良野町

図 16　かなやま湖でのカヌー・ヨット
出典：フィールド紹介　かなやま湖

3.2「鉄道員（ぽっぽや）」のまち

日本全国に感動を巻き起こした、高倉健主演の映画「鉄道員（ぽっぽや）」。（浅田次郎原作）この映画のロケは、この南富良野町で行われたのである。南富良野町は「鉄道員（ぽっぽや）」のロケ地としても注目を集め、幾寅（幌舞）駅を中心としたロケセット周辺は多くの観光客が訪れている。物語の舞台となった「幌舞駅」は、「JR 幾寅駅」として南富良野町

で現在も利用されている実存する駅なのである。駅に貼ってある「鉄道員（ぽっぽや）」のポスターの左には、有珠山による不通区間の案内のポスターが貼ってあったこともあり、ここからも実際に使われている駅であることが分かる。

更に、「だるま食堂」などロケで使用された建物は、現在も映画の町並みのままに保存・公開され、そこに佇むと、まるで映画の中に入り込んだような感覚を覚える。

また、隣接している「情報プラザ」内には、鉄道員（ぽっぽや）展示コーナーがあり、スチール写真や出演者の色紙、主演者がロケで着用した衣装などが展示されているほか、撮影の様子を盛り込んだ映画のダイジェスト版ビデオが常時放映されている（ロケセット、情報プラザは見学無料）。

鉄道員（ぽっぽや）のロケセットと同様の、この町全体の古き良きたたずまいは、訪れる人々をノスタルジックで暖かな気分にさせてくれるだろう。

図 17　JR 幾寅駅　出典：南富良野町

参考 HP

南富良野町 HP：http:// www.town.minamifurano.hokkaido.jp

わがマチ・わがムラ-市町村の姿-：http:// www.toukei.maff.go.jp

上川支庁 HP：http:// www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp

北海道庁 HP：http://www.pref.hokkaido.lg.jp

南富良野町タウンガイド：http://www.minami-furano.jp

ようこそ山村へ「山村・都市交流」：http://www.sanson.or.jp

北海道市町村ガイド＜南富良野町ガイド＞：http://2ocn.ne.jp

北海道の風景-かなやま湖-http://www.ne.jp/asahi/north/dreams/kanayamako.htm

南富良野町農業概要：http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/furano/gaiyou/nannfu.html

北海道の観光情報：

http://www12.plala.or.jp/KITA2003/hokkaidou/information/minamifurano_town.htm